

目 次

第1部/報告

少年非行と地域社会…………… 松本 良夫…………1

I 地域現象としての非行問題……………1

1 少年非行の近況……………1

(1) 少年非行の増加……………2 (3) 一般化……………3

(2) 低年齢化……………2 (4) 初発型非行の増加……………3

2 非行現象の地域差……………3

(1) 非行現象の府県間較差……………4 (3) 中学校区レベルでの地域差……………6

(2) 1府県内の地区間較差……………5

3 非行現象の地域差の諸相……………9

II 地域課題としての非行防止……………11

1 わが国の非行対策の特徴……………11

2 非行防止活動の構造……………13

3 非行防止活動の技術……………15

(1) 統制論……………17 (3) ラベリング理論……………18

(2) 非行下位文化論……………18

4 非行防止活動の組織……………18

おわりに……………20

付 論

少年非行・戦後40年間の変遷(抄)…………… 松本 良夫…………21

I はじめに……………21

II 各時期の少年非行の様相	22
1 第Ⅰ期（昭和20年から34年まで）	22
2 第Ⅱ期（昭和35年から47年まで）	25
3 第Ⅲ期（昭和48年以降今日まで）	28
III 今後の展望	30

第2部／座談会

地域課題としての少年非行	32
--------------------	----

出席者	松本 良夫	岩井 弘融
	林 勝造	逸見 武光
	柏熊 路子	
司会	宮坂 忠夫	

I レポートの要点	33
この座談会のねらい	33
はじめに付論について	34
地域による様相の違い	34
非行防止はショーウインドー行政	36
コミュニティは非行防止の結節点	37
社会技術の応用としての非行防止	38
社会過程としての少年非行	39
非行防止のための組織と機関	39
II 少年非行の問題点をめぐって	41
「非行とは何か」について	41
非行の一般性と特殊性	43
戦後の健全育成対策と時代の変化	43
青少年問題の質的变化	45

家庭内暴力とは	46
増えてきた成人の犯罪	47
少年の対策は行き届き過ぎ?	48
地域社会と衛生・司法・教育のバランス	48
公衆衛生は民主的な住民活動で	49
コミュニティでは司法セクターが前面に	50
市町村と保健所の格差	51
もっと積極的な課題を	52
身近で関心の多いいじめの問題	53
非行・いじめは生活構造のひずみから	54
普通の子どもにも暴力やいじめが	55
非行予防より健全育成を	56
総合的な対策のシステムを	57
労働対策のかかわり	57
学校やPTAより役に立つ「地域」	59
役所の横のつながりと地区組織	60
非行・いじめの原因は?	61
「4内暴力」と生活からの疎外	61
いじめの背景に大人の社会?	62
精神衛生の対象はマリグナントなもの	63
いじめることができない子	63
「内」ばかりでも非行か?	64
スイスの「カデ」、子どもとコミュニティ	65
暮らし・学習・遊びのバランスをコミュニティで	66
伝統型の犯罪と小さな犯罪の多発	67
生活教育の重要性	68
わかっているのと直すのは別	69

コミュニティの側の問題点	69
外国のコミュニティとの違い	70
III 対策への手がかかり	71
非行の早期発見について	71
かかっても重症にならない方法	73
正義・卑怯・きたないという感覚	73
コミュニティの一員としての教育	74
包み込んだり、包み込まれたりする体験を	75
コミュニティ対策に対するリーダーの感覚	75
女性犯罪の増加について	76
生活行動面に目標をおくプランニング	78
専門家の技術と住民の知恵	79
してみたいコミュニティでの対策	80
各教科のできない子どもをどうするか	80
子どもに対する信頼感を	81
生涯教育と結びつけた地域活動	81
高齢者の活力と地域の横のつながりを	82